

11月23日のトルコ・リラ下落について

エルドアン大統領の通貨安容認発言でトルコ・リラは急落

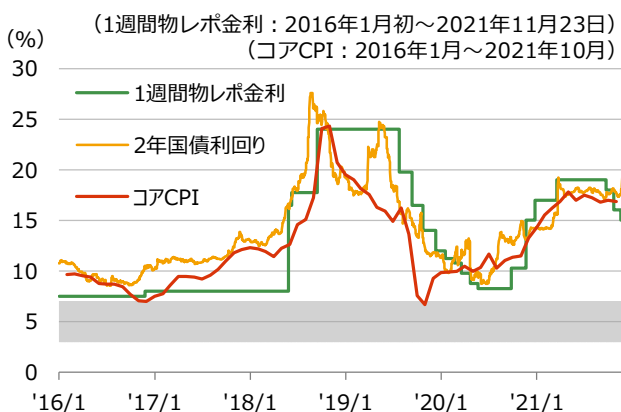
2021年11月24日

しばらくは金融市場の不安定な動きが続く恐れ

11月23日（現地、以下同様）にトルコ・リラは急落し、円に対する下落率は前日比11.4%となりました。直接的な材料は、エルドアン大統領がこれまでのトルコ中銀の利下げを擁護し、更に通貨安を容認する発言をしたことにあります。具体的には、「政策金利が低く抑えられていることは喜ばしい」、「（通貨安が）投資や生産、雇用を拡大させる」などと発言したことが伝えられています。また、リラ円が節目の10円を割り込んだことで、本邦個人投資家によるリラ買い・円売りポジションのロスカットを誘発したことも、リラの下落幅が大きくなった要因だと考えられます。

リラ急落を受け、エルドアン大統領とトルコ中銀は23日に緊急会議を開催し、同行は「為替レートは、非現実的で、経済ファンダメンタルズから完全にかき離れた（リラ安の）水準にある」とした上で、企業や個人に対して為替取引を控えるよう警告する声明を出しました。これにより、ごく短期的にはリラ売り圧力が和らいだように見えます。トルコ中銀は、11月18日の金融政策決定会合の声明文で、次回12月16日の会合で追加利下げの余地を検討するとしていましたが、この状況下での利下げは難しいでしょう。一方、仮に今後リラが反発すればトルコ中銀に利下げ余地を与えることになるため、いずれにしても為替市場の不安定な動きは続きそうです。市場では、いずれ利上げせざるを得ない状況になることを織り込んで国債利回りが上昇していますが、信用リスクが過去の危機時に比べて上昇していないことはトルコ中銀が利上げする必要性を削いでいるとも言えます。リラが安定化するためには、インフレが落ち着くか、市場の圧力に屈してトルコ中銀が利上げする必要があるそうですが、実現するには時間を要すると思われる。

トルコの金利とコアCPI（消費者物価指数）

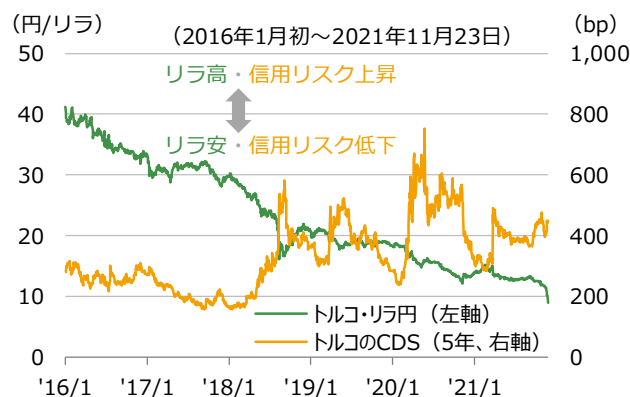


※コアCPIは前年同月比

※陰影部はトルコ中央銀行によるインフレ目標のレンジ

(出所) ブルームバーグ

トルコ・リラ円とトルコの信用リスク



※CDS（クレジット・デフォルト・スワップ）は、上昇するほどデフォルト（債務不履行）リスクが高まっていることを表す

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。